



## 2013-2014 年度 第 1573 回例会 宇都宮南ロータリークラブ会報

会長：仲田俊夫 幹事：田口久雄 会報委員長：藤島 拓  
 例会場及び例会日：ホテルニューイタヤ ≪水曜 12：30≫  
 事務所：宇都宮市大通り 2-4-6 ホテルニューイタヤ内  
 TEL:028-635-5511 (ホテルニューイタヤ)



3 月 第 3 例会

2014 年 3 月 19 日(水)  会員数 46 名 出席 34 名



司 会 田中正夫 S. A. A

- ロータリーソング「それでこそロータリー」



ビジター紹介 中野智之 親睦・家族委員長

§ 長 正英 様 (宇都宮陽北 RC)



会長挨拶 仲田俊夫 会長

皆様こんにちは。

長先生ようこそお出で下さいました。南クラブの家庭的な雰囲気味わって下さい。

日曜日にのんびりと下野新聞を読んでおりましたら、21 面に山本敬三会員の新社屋開設の記事が出ておりました。おめでとうございます。仲間が会社を大きくしたり事業を伸ばす事は大変喜ばしく良い事だと思っております。

昨日は、第 2550 地区の会長幹事会がございました。第 3 グループ A・B の会員数は 458 名(12 月 3 日現在)で、14 年 3 月 18 日現在 504 名となりました。今年度残り 3 か月となりましたが、当クラブはあと 2 名の増強で目標が達成されます。現在、青木会員の推薦で 1 名入会候補の方がいます。会員全員でもう一人のご推薦を戴き、目標達成したいと思っております。皆様の御協力をよろしくお願い申し上げます。



幹事報告 田口久雄 幹事

§ スペシャルオリンピックス日本・栃木より参加お礼状が届いております。

§ 国井修様の卓話のお知らせが届いております。4 月 17 日(木)午後 12:30~2:00 宇都宮東武ホテルグランデに於いて、参加費 MU 代 2,000 円です。参加ご希望の方は幹事までお申し出下さい。



## スマイルBOX委員会

## 若林博純 委員長

- § 仲田俊夫会長 鈴木秀明会員の卓話、楽しみにしております。今回はどこの国のお話か興味があります。
- § 村上芳弘会員 昨日は市内9クラブの会長幹事会がありました。仲田会長 田口幹事も出席しました。会員増強には各クラブ一生懸命です。
- § 鈴木秀明会員 本日は卓話の機会を与えて下さいます、ありがとうございます。過激な話はないつもりです。
- § 塩田 潔会員 家の梅の花が満開になりました。もうすぐ桜ですね。2週続けて欠席しました。申し訳ありません。
- § 村田宏明会員 久しぶりです。
- § 安齊誠一会員 ベトナムの孤児への義援金、3,000ドルを本日お預かりしました。来月7人で訪問し渡してきます。又、その時に贈る文房具の寄付ありがとうございます。あと1週間よろしく追加の程、お願いします。
- § 平澤照隆会員 先般は妻の誕生日プレゼント、大変ありがとうございました。
- § 坂井俊司会員 皆様の浄財で、昨年4月から送り続けた亙理ロータリークラブへの地酒は3月で終了しました。皆様の御協力ありがとうございました。
- § 小林 裕会員 本日、当社による交通量調査を実施します。運転免許証がゴールドになりました。鈴木秀明会員の話を楽しみにしています。
- § 藤島 拓会員 鈴木さん卓話よろしくお願い致します。
- § 中野智之会員 鈴木会員の卓話楽しみです。
- § 酒澤伸二会員 本日の卓話を楽しみにしています。どうぞよろしくお願い致します。
- § 水原 清会員 義父の誕生日です。
- § 若林博純委員長 アジアにおける諸問題は、全て鈴木秀明さんに一任、お任せ致します。

多くの会員の皆様にご協力戴きありがとうございました。	今週の金額	17,000円
亙理ロータリークラブワンコイン支援	今週の金額	687円
甲子園募金	今週の金額	5,110円



## 会員卓話

## 国際奉仕委員会

副委員長 鈴木秀明 会員

「世界理解月間によせて」



2011年12月末日現在で、ロータリークラブは世界201の国と地域で、34,282クラブ、1,218,199人を擁する大組織となっている。

「世界理解月間」は、1905年2月23日に開かれた最初のロータリークラブ例会を記念して設けられ、その日は「世界理解と平和の日」と規定されている。

好むか好まざるかに関わらず、この世界には多くの国が存在し、多くの民族が住み、それぞれの生活を営んでいる。そして互いに交流しながら、交易により物資を融通し合い、知識・ノウハウを補完し合いながら成り立っている。特に資源や農作物の不足している日本は、対外関係を疎かにしては存在することさえできないのである。

そうした中で、ロータリークラブは独自の海外ネットワークで、1年交換学生や夏期交換学生・GSEの受入れや派遣、また、各種の補助金による国際ボランティア、日本独自の米山記念奨学会の活動を行っている。

#### 1、他の国を理解するための視点

地理（位置、地形、気候、観光地等）、産業（商・工・農業等）、歴史、民俗（人種・言語・宗教等）、慣習、法律、その他

#### 2、日本における外国人の現状と課題

国際結婚 ; 1995年まではフィリッピンが1位、その後中国が1位、日本人男性と外国人女性の組合せが多い（3倍）。1980年には結婚数の0.9%（7,261組）→2010年には4.3%（30,207組）、**1位中国**（10,162組）、2位フィリッピン（5,212組）

課題は離婚率の高さ（半数以上）、仲介業者との金銭トラブル、偽装結婚、永住権目的の結婚である。

留学生 ; 2010年が最多141,774人、2011年5月1日現在138,075人（**1位中国** 87,533人 63.4% 一時70%超、2位韓国17,640人、以下台湾、ベトナム、マレーシア）（男性70,540人、女性67,535人）、文科省は2020年までに留学生30万人計画を立てている。課題は言葉、生活・学費の確保。

外国人観光客 ; 2010年の861万2千人をピークに、東日本大震災の影響も有り落ち込んでいたが、2013年に一気に更新した。観光客数1036万4千人（韓国2,456人、台湾2,211人、中国1,315人、香港746人、以下米、タイ、豪、英、シンガポール、マレーシア、仏、カナダ等）

在留外国人 ; 2012年12月末現在で2,033,656人、**1位中国**（652,555人）、2位韓国・朝鮮（530,046人）、3位フィリッピン（202,974人）、4位ブラジル（190,581人）課題は言葉がトップ、次が生活習慣、その他となっていて、全体に共通である。

在日韓国朝鮮人 ; 2013年6月末現在で526,575人（特別永住者373,689人、一般永住者63,704人、定住者7,734人、その他）課題は歴史問題も含め、根が深い。

外国人児童・生徒 ; 2000年における日本語教育が必要な外国人子女の数は18,142人、2010年には28,511人に増加した。言語順位は1位ポルトガル語、**2位中国語**、3位フィリッピン語である。課題は、学校の受入れ体制、外国語教師の不足、学力差、母国アイデンティティの理解等がある。

就業ビザ ; ビザの発給には職種によって厳しい制約がある。基本的には法務省入国管理局（栃木県は東京入管宇都宮出張所）が管轄する。就業ビザは法務省が定める15項目に該当するものに限られ、単純労働は除かれる。留学や家族滞在、技能実習は一般ビザに該当する。その他特別ビザ、外交ビザ、公用ビザがある。

ここでは外国人研修制度について説明する。これは本来海外に進出した企業が、現地人を教育するのに日本の研修所等に招聘するために作られた制度である。しかし、現在では不法滞在の温床となり、法改正が繰り返されている。

外国人研修制度 ; 技能実習ビザを発給、基本的に1年間とし「研修」期間とする、更に一定の基準を満たせば、2年間「特定活動」期間としてビザを延長する。2008年の68,150人をピークとし減

る傾向にある（リーマン・東日本大震災の影響、法律の厳格化）。2012年の数字は、1号許可（1年目）44,897人（中国 35,004人 78.0%、ベトナム 4,788人以下インドネシア、フィリッピン等）。2号許可（2～3年目）53,791人（中国 38,808人、ベトナム 6,488人、以下フィリッピン、インドネシア等）

### 3、受け入れる側として日本人の課題

**グローバルな視点** ; 冒頭でもお話しした通り、今や一国だけで成り立っていける国は無い。最も繁栄している国の一つである米国においても、都市部や郊外を問わず黒人やヒスパニック系、アジア系の人々が多少のトラブルを抱えながらも共存している。南アフリカのアパルトヘイトも終わりを告げた。旧ユーゴスラビアやロシアカフカス地方、中東アジア等の紛争は、民族問題よりも思想・宗教・政治に絡んで派生しているものも多い。

日本は過去の戦国時代を除いては、比較的内戦が少ない国といわれている。それは島国で、周辺は流れの急な海峡に守られ、単一民族（アイヌ?）・単一言語（沖縄・津軽弁?）にも関係すると思われるが、反面外国人への拒否反応はかなり強いものがある。一方海外との交流は商取引き以外にも民間交流や留学等を通じて盛んになってきている。さらに政府は観光立国日本を掲げて、外国人観光客の受入れに本腰を入れている。それは数字にも表れている。私たちも世界市民としての自覚を持ち、グローバルな視点を身に付けなければならないと考える。

**差別意識** ; 差別とは、正当な理由によらず偏見や先入観に基づいて、特定の人物や集団に対して、不利益・不平等な態度をとる、あるいは関わらないことをいう。例えば、地位・身分、職業、人種・言葉、国・地域、性・年齢、能力・学歴、病気・障害等が対象となりやすい。これらは、習慣的に、経験上、あるいは教育によりもたらされることがあるが、最も超え難いところは生理的な反応である。色や体臭、衛生意識、食生活等が代表的なものである。

**理解学習** ; 人間が相対者を受け入れる順序は、生まれてまもなく母親、次に両親、家族、更に隣人・友人へと年齢と共に広がりを見せていく。それが教育により地域、民族、国家へとつながっていく。そこまでが、ナショナリズムの範囲となろう。そこから、グローバルな世界を意識していくためには、初めは学習が必要である。外国を理解しやすくする教科としては、地理学や世界史、直接理解するための手段としては語学がある。しかし、どれほど学習したとしても、直接外国人と交流しなければ、理解は深まらない。その方法としては、海外に出向くか外国人を受け入れるしかない。観光目的の海外旅行だけでは、何度数を重ねても、その国の人々との深い交流は望めない。最も効果的な手段は、ロータリークラブで交換留学生を受け入れ、生活を共にすることである。

**課題** ; 現在の日本では核家族化が進み、他者を受け入れようとしにくい風潮が強くなっている。独身者が増えている理由の一つも、家庭と個人を置き換えてみれば分かることだ。これを乗り切るためには、ロータリアンの家庭内での強いリーダーシップが必要となろう。

もう一つの理由としては、精神的な負担と経済的な負担である。このことに関しては、私はいつも家族に言っていることがある。それは、気も金も使わずに、放っておけということである。その方が、彼らにとっても気ままに居られ、ありのままの日本を体験できると思うのである。また、細々と伝えられる地区ロータリーからの注意事項も、アバウトで受け流すことも時には必要である。しかし、この点に関してはあまりお勧めはしない。

彼らとのトラブルも有ったが、家族にとってのプラス面も多く有ったと思う。それは、特に子どもたちの考え方に変化が見られたことだ。それぞれがあまり細かいことにこだわらず、大らかな人格に育っていったように思う。いずれにしても、受け入れた子どもたち一人ひとりとの交流の思い出が、我が家にとっては財産になっていると思う。その場面々々の残された写真が、大切な宝物である。

## 出席報告 嶋田辰雄 委員

会員数 46名 前々回 3月5日  
 出席数 34名 訂正率 65.00%  
 欠席数 12名  
 出席率 80.95%

## 次回例会

3月26日(水) 外部卓話  
 星の家代表 塩尻真由美様  
 「希望ってなんですか？貧困の中の子供」



## プログラム

月 日	時 間	内 容
4月 2日(水)		4月5日(土)お花見例会振替休会
4月 5日(土)	東京バスツアー	隅田川屋形船桜見物・国会衆議院見学
4月 9日(水)	12:30~13:30	外部卓話：雑誌月間によせて
4月 16日(水)	12:30~13:30	会員卓話：平澤照隆 会員 「真言密教」
4月 23日(水)	12:30~13:30	外部卓話：宇都宮商工会議所 経営指導員 高野仁美 様
4月 30日(水)	12:30~13:30	外部卓話：宇都宮大学 准教授 高橋若菜 様 「地球温暖化の現状と展望」